

# 社会

## 1 目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

## 2 評価の観点及びその趣旨

観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
趣旨	社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。	社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。

## 3 改訂のポイント

- 社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させる。
- 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から
  - ・ 習得すべき知識、概念の明確化を図る。
  - ・ コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取らせる。
  - ・ 社会的事象の意味、意義を解釈させる。
  - ・ 社会的事象の特色や事象間の関連を説明させる。
  - ・ 自分の考えを論述させる。
- 我が国の国土や歴史に対する愛情を育み、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるための資質や能力を育成する。
- 持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成する。

各分野の改訂の主な要点

〔地理的分野〕

- ・ 世界に関する地理的認識の重視
- ・ 動態地誌的な学習による国土認識の充実

**指** 各州の基礎的・基本的な知識を静態地誌的（地形・気候・人口など項目ごとに学習する）に扱って大観したうえで、教師によって主題を設定し、その追究を通して地域的特色を理解させる。

**指** 取り上げた地域の特色ある事象と他の事象を有機的に関連付けて考察する。羅列的、並列的な知識注入に陥り、静態地誌的な扱いにならないようにする。

**指** 時代を大観し表現する活動を工夫し、各時代の特色をとらえさせるようにする。

〔歴史的分野〕

- ・ 「我が国の歴史の大きな流れ」を理解する学習の一層の重視
- ・ 歴史について考察する力や説明する力の育成

**指** 時代の特色や時代の転換について考えたり表現したりする学習を行う。

**指** 内容の中項目に「○○などを通して、AがBであったことを理解させる」と記述されているのは「記憶」だけでなく、「自分の言葉で表現できるように」する学習活動を重視するという意味である。

〔公民的分野〕

- ・ 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習の重視
- ・ 課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養うことの重視

**指** 内容（1）イで習得した、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を以後の学習に生かす。

**指** 持続可能な社会を形成するという観点から、課題を探究し自分の考えをまとめさせる内容（4）イが設けられた。公民的分野に加え、地理的分野、歴史的分野を含めた中学校社会科のまとめとして適切かつ十分な時間を配当する。

## 4 評価規準と展開例

**指** 日本を7つの地域に分け、それぞれの地域について考察する中項目。指導の順序や配当時間は固定的にする必要はない。本事例は中国・四国地方を日本の諸地域の最後の単元として設定し、他地域との結び付きを中核とした考察を基にして地域的特色をとらえる学習を設定した。

**指** 考察の仕方は次の7つ  
 (ア) 自然環境を中核とした考察  
 (イ) 歴史的背景を中核とした考察  
 (ウ) 産業を中核とした考察  
 (エ) 環境問題や環境保全を中核とした考察  
 (オ) 人口や都市・村落を中核とした考察  
 (カ) 生活・文化を中核とした考察  
 (キ) 他地域との結び付きを中核とした考察

### 1) 単元名 日本諸地域～中国・四国地方～

### 2) 単元のねらい

- ・ 他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基に、中国・四国地方の地域的特色に対する関心を高め、意欲的に追究し、とらえようとする。 **【社会的事象への関心・意欲・態度】**
- ・ 中国・四国地方の地域的特色を地域間の結び付きを中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。 **【社会的な思考・判断・表現】**
- ・ 中国・四国地方の各地の資源が生かされている例について資料を収集し、有用な情報を読み取り図表などにまとめたりすることができる。 **【資料活用の技能】**
- ・ 中国・四国地方を他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基に、地域的特色を理解し、その知識を身に付けることができる。 **【社会的事象についての知識・理解】**

**評** 内容（2）ウ「日本の諸地域」の7つの単元それぞれで4観点すべてを評価せず、単元ごとに重視すべき評価の観点を絞り込み、中項目全体で4観点を評価することも考えられる。

### 3) 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
①他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基に、中国・四国地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	①中国・四国地方の地域的特色を他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	①中国・四国地方の各地の資源が生かされている例について資料を収集し、読み取っている。 ②読み取った情報から有用な情報を適切に選択し図表などにまとめている。	①中国・四国地方を他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基に、地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

#### 4) 単元指導計画と評価計画

**指** 単元によって時間数は流動的で良い。

**指** 第二次の中核的考察につながるよう、その地域の特徴を創り出している重要な内容を扱うことに留意する。

**評** 1 単位時間に 4 観点すべての評価をしなくても良い。

次 程	時 間	ねらい・学習活動等	評価の観点				評価方法等
			関	思	技	知	
第一次 (見出す)	1	中国・四国地方のあらましを知る。 ○イメージマップに中国・四国地方はどんなところかかき出す。 ○地図や雨温図を見て中国・四国地方の地形や位置関係、山陰・瀬戸内・南四国の気候の特徴をとらえる。 ○地図帳や写真、グラフなどから本州四国連絡橋や高速道路の概略をとらえる。			○		・白地図への記入内容
	2	大根島の牡丹生産が全国一になっている要因を追究する。 ○グラフや牡丹農家への聞き取りから牡丹の生産が伸びた要因や牡丹栽培が地域に与えた影響について考察する。			○		・発言 ・ワークシートへの記入内容
第二次 (追究する)	3 4	中国・四国地方で他地域と結び付き地域の資源を生かして変容している地域について調べる。 ○イメージマップの中から選び出したものを班で調査し、まとめる。 (例) 石見銀山、水木しげるロード、高知の野菜 今治のタオル など	○		○		・行動 ・白地図や図表、発表原稿の記入内容
	5	自分とは違った見方・考え方を知り、中国・四国地方への見方・考え方を深める。 ○班ごとに調べてきたことを発表し、中国・四国地方で他地域と結び付いて影響を受けながら変容してきた地域を学級全体で確認する。			○		・ワークシートへの記入内容
第三次 (表現する)	6 (本時)	中国・四国地方の地域的特色を表現する。 ○各班で中国・四国地方の地域的特色をまとめ発表する。 ○中国・四国地方のキャッチフレーズを作り発表する。			○		・発言 ・キャッチフレーズ

**指** 地図を有効に活用して事象を説明させたり、自分の解釈を加えて論述させたり、意見交換させたりするなどして、言語活動の充実を図る。

**指** 中核とした事象に関連したものを、様々な資料を適切に活用してとらえる段階。

**評** 「思考・判断・表現」は思考・判断したことを言語活動を通して評価し、「技能」は情報を読み取ったりまとめたりした作品等から評価する。

**指** 地域的特色を表現する際には、分布図や地図を活用したり、論述したり、パンフレットや新聞を作成したりするなど、言語活動を工夫する。

**指** 言語活動を通して表現する段階。

**評** 事後にノートやペーパーテストで他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基に、身に付けた中国・四国地方の地域的特色の知識を確認することも考えられる。

#### 5) 本時の学習

① 本時のねらい  
これまでの学習、話し合い、発表からとらえた中国・四国地方の地域的特色をまとめ、キャッチフレーズで表現することができる。  
【社会的な思考・判断・表現】

② 本時の展開

学習活動	教師の支援	☆評価 ○教材
①前時までの学習をふり返る。 <b>指</b> 他地域との結び付きの影響を受けて地域が変容している例等を確認する。	・掛地図や地図帳、前時までの学習で使用した資料などを活用してこれまでの学習が想起できるようにする。 <b>指</b> 事実を確認する課題を設定した。	<b>指</b> 表現方法や話し合いの場を工夫し、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させるようにする。
「中国・四国地方」はどのような地域なのかまとめよう		○付せん、台紙
②自分の考えを付せんに書いて持ち寄り、班で話し合う。 <b>指</b> 自分の意見を発表する際には、根拠を明らかにさせるようにする。	・考えたり書いたりする個人の活動の時間を確保する。 ・各自の書いた付せんを見ながら、必要に応じて根拠を尋ねたり、さらに詳しく書いたりするよう言葉かけをする。 ・共通性のあるものはまとめて見出しを付け、中国・四国地方の最も顕著な地域的特色を各班でマグネットシートに記述するよう説明する。 ・各班の発表を聞いて、共通する意見は近くにまとめて黒板に貼るよう留意する。	○マグネットシート <b>評</b> 付せんの記述や話し合いの様子を評価に生かすことが考えられる。
③班の意見をまとめ、中国・四国地方の最も顕著な地域的特色を発表する。 <b>指</b> 班の意見がまとまった理由についても確認する。	<b>指</b> 事実確認を踏まえ、思考・判断を促す課題を設定した。	<b>評</b> 発言から把握できなかった生徒の考えをノートや付せんの記述から読み取り評価する。
「中国・四国地方」のキャッチフレーズを作ろう		
④キャッチフレーズを通して、中国・四国地方の地域的特色を自分の言葉で語る。	・キャッチフレーズには説明を添えて発表するよう説明する。 <b>指</b> 教師が生徒の発言を関連付けたり、発言内容を解釈して価値付けたりすることが重要。 (例)「～とはこういうことだね。」	☆根拠となる地域的特色をあげながら説明している。 (思考・判断・表現：発言、ノート) <b>評</b> キャッチフレーズの出来映え(言葉のおもしろさ等)で評価せず、思考・判断した内容を評価する。

③ 本時の評価

評価の観点	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
社会的な思考・判断・表現	中国・四国地方の地域的特色について、他の6地域の特色や世界と比べた日本の地域的特色の学習内容と関連付けてキャッチフレーズを作り説明している	中国・四国地方の地域的特色について、考察したことや他の班の発表から学んだことを基に、キャッチフレーズを作り説明している	中国・四国地方の地域的特色に気付くことができるように、自分たちの班の意見や、他の班の意見を参考にするとともに、自分の付せんやノートを見直すよう助言する。

**評** 「十分満足できる」状況と判断するためには、「おおむね満足できる」状況をいくつかの視点で具体的に想定しておく必要がある。そして、その「おおむね満足できる」状況より、例えば、読み取った事実を踏まえたり、既習事項と関連付けたりして考察を加えるなど、質的な高まりや深まりがあると判断できる場合「十分満足できる」状況と評価する。